

## 報道関係各位



### 県内の製造業とデザイナーのマッチングにより開発した 新商品の発表を行います。

NICO（公益財団法人にいがた産業創造機構）では、県内のクリエイティブ産業の積極的な活用を促進することを目的に、今年度製造業とデザイナーのマッチング支援事業を実施しました。

事業の成果発表としてマッチングが成立した企業が開発した新商品（プロトタイプ）の展示を2月21日（木）、22日（金）にアオーレ長岡にて開催されるニイガタIDSデザインコンペティション会場で行います。

つきましては、多くの方にご来場いただき成果をご覧くださいませよう、報道等でお取り上げくださるようお願い申し上げます。

- 日時：平成31年2月21日（木） 10:00～17:00  
22日（金） 10:00～15:00

- 会場：アオーレ長岡 アリーナ  
ニイガタIDSデザインコンペティション会場内

- 入場料：無料

#### ●同時開催イベント

- ・ニイガタIDSデザインコンペティション2019 出品作品一般公開
- ・百年物語2019 モデル展示  
（フランクフルトで開催のアンビエンテ2019で発表した最新モデルの国内初展示）
- ・新潟クリエイティブバンク登録事業者PRコーナー
- ・IDSデザインショップ（IDSコンペ出品作品、過去出品作品の一部を発売）

- 【添付資料】・製造業とクリエイティブ産業のマッチング支援事業マッチング成立事業者一覧
- ・製造業とクリエイティブ産業のマッチング支援事業チラシ

〈この件に関する問い合わせ先〉

（公財）にいがた産業創造機構 経営支援グループ 販売促進チーム 担当：芳賀／河村  
〒950-0078 新潟市中央区万代島5番1号「万代島ビル」9階  
TEL：025-246-0044（直通） FAX：025-246-0030 E-mail：design-c@nico.or.jp

クリエイティブ産業の活用によるものづくり支援事業  
 製造業とデザイナーのマッチング支援事業 マッチング成立事業者  
 一覧

No	製造業		デザイナー	開発商品
1	株式会社野崎製作所（三条市）	×	スキップデザイン（燕市）	インテリア
2	ウエタックス株式会社（上越市）	×	EPOXY DESIGN（燕市）	音響機器
3	株式会社川崎合成樹脂（三条市）	×	TWOOL株式会社（長岡市）	キッチンツール
4	株式会社白川製作所（柏崎市）	×	スイカノタネ（新潟市）	遊具
5	丸喜屋産業株式会社（南魚沼市）	×	スイカノタネ（新潟市）	インテリア
6	有限会社桑野工業（三条市）	×	EPOXY DESIGN（燕市）	インテリア
7	北興商事株式会社（三条市）	×	EPOXY DESIGN（燕市）	インテリア

# NIIGATA CREATIVE BANK

公益財団法人にいがた産業創造機構（NICO）では、企業の県内クリエイティブ産業の積極的な活用とクリエイティブ産業間の協業を進めるためのツールとして「新潟クリエイティブバンク」を実施しています。新規クライアント獲得のためのPRツールとして、協業先の発掘などのネットワーク拡大のツールとして、是非ご活用ください。

[www.nico.or.jp/creative-bank/](http://www.nico.or.jp/creative-bank/)



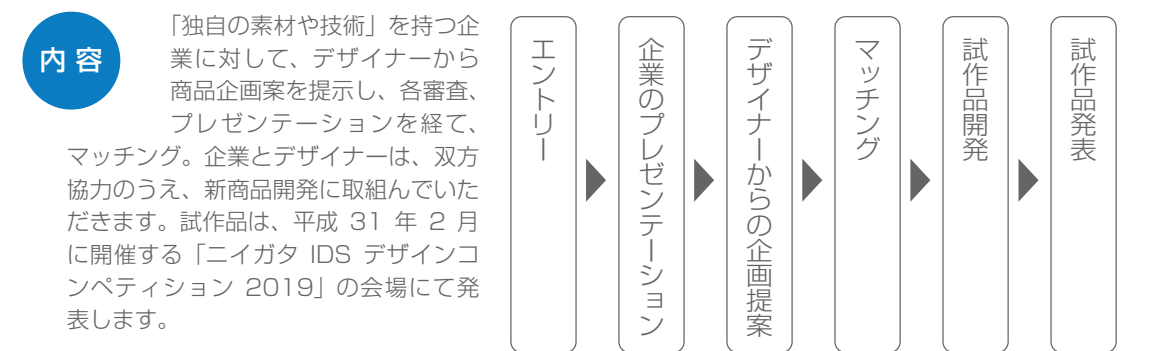
平成 30 年度クリエイティブ産業の活用によるものづくり支援事業

## 製造業とクリエイティブ産業のマッチング支援事業参加者募集

（公財）にいがた産業創造機構（NICO）では、企業のクリエイティブ産業の積極的な活用を促進することを目的に、新潟県内の製造業者とクリエイティブ産業とのマッチング事業を実施します。企業にとっては、県内の若手デザイナーとの新商品開発に取組めるきっかけとなり、若手デザイナーにとっては、新たな協業先の獲得のチャンスです。是非、この機会をご活用ください。

- 対象**
- 製造業 県内に事業所を置く中小企業者で、デザイナーとの新商品開発を目指す方。独自の素材や技術を保有し、それらを活用した新商品開発を目指す方。
  - デザイナー 業歴 20 年以内の新潟県内に主たる事業所を置くデザイナー。県内の企業との商品開発を目指す方。

**募集期間** 平成 30 年 5 月 28 日（月）～ 6 月 29 日（金）まで



※詳細は実施要領（製造業向、デザイナー向）をご覧ください。

マッチングに成功した企業は、別途実施する試作開発費用の助成金「平成 30 年度クリエイティブ産業の活用によるプロトタイプ開発支援助成金」に申請できます。

### 平成 29 年度のマッチング実績

昨年度は、2 組がマッチングに成功し助成金を活用しプロトタイプの開発を行いました。3 月に開催した、ニイガタ IDS デザインコンペティション 2018 の併設展で発表。現在、販路開拓やブランディングに取り組んでいます。詳しくは、中面（NICO プレス 155 号より転載）をご覧ください。



プロトタイプ発表の様子（アオーレ長岡）

# デザイナーとのマッチングで 新しい刺繍の 可能性を表現

## 塚野刺繍株式会社

〒959-1836 五泉市南本町2-1-61  
TEL.0250-47-4173 FAX.0250-47-4163  
E-mail at.emb.tomoe@gmail.com

専務取締役  
塚野 友恵氏



### 繊細な刺繍技術で さまざまなオリジナル商品を製作

最大15色まで使用できる色数の多さを活かし、細部にまでこだわった刺繍製作を得意とする塚野刺繍株式会社。同社はアパレルメーカーからの受注を主力としているが、近年はオリジナル商品の製作・販売にも積極的に取り組んでいる。

「海外製品にはない日本の刺繍の美しさを見てほしいという思いもあり、刺繍で表現できるものを考えてきました」と塚野専務が語るように、これまでボタンやアクセサリ、『ししゅうのお便り』などの雑貨小物を製作。刺繍の立体感を指先で感じながらストーリーを想像して楽しめる『ししゅうのえほん』は、2017年のIDSコンペに出品し、注目を集めた。

「これまで社内でアイデアを出しても、今一つ自信を持ってないのが悩みでした。今回の支援事業を通して、やはりデザイナーに提案していただいたデザインはさすがだと思いますし、私たちも自信を持って商品を世に出すことができます」と語る塚野専務。

### 新しい表現を目指してNICOの支援事業に応募

「クリエイターと一緒に、もっと新しいものを作りたい」と考えていた塚野専務は、昨春秋、NICOのHPで「製造業と県内デザイナーのマッチング支援事業」のこのことを知り応募。技術をプレゼンテーションし、3社のデザイン会社から商品の企画提案を受けた。その中から選んだのが、株式会社どらが提案した刺繍の観葉植物だった。「刺繍でこういうことができるのかという発想が新鮮でしたし、どこに販売すればいいのかもイメージしやすかった。また、商品としてこの先もいろいろな展開ができると感じました」。

### 温かみと優しさを演出する刺繍の観葉植物が完成

短い製作期間の中、デザイナーが提案する色を刺繍でどう再現するか、色の組み合わせなど、何度も試作をしたという塚野専務。「こうした色の発想はデザイナーでなければ出てきません。私たちだけだとつい楽な方法を考えてしまいがちですが、デザイナーの妥協しない姿勢があったからこそ今までにない、新しいものが作れたと思います」。

こうして完成した『embroidery cozy plants』は、葉っぱ一枚一枚が繊細な刺繍でできた、温かみと優しい雰囲気を出すオブジェだ。付属のアロマボールで好きな香りを楽しむこともできる。「今回のマッチングで得たアイデアをもとに、新しい展開をしていきたいですし、展示会にも出展して販路を広げたい。刺繍でさまざまな表現ができるということをもっと多くの人に知ってほしいです」。

同社の持つ高い技術とデザイナーによる斬新な発想が、新しい可能性を生み出した理想的な例といえるだろう。



「ししゅうのえほん」の12か月シリーズは、それぞれの季節に合わせたストーリーと絵を刺繍で表現した温もりのある絵本。柔らかく軽いので、持ち運びにも便利。インテリアとしても楽しめる。

# 得意とする印刷技術× デザイナーの発想で 自社商品開発

## 有限会社大林印刷

〒940-1164 長岡市南陽2-951-9  
TEL.0258-23-3571 FAX.0258-23-3570  
E-mail yamada@oobayasi.com  
URL http://oobayasi.com

取締役社長  
山田 進市氏

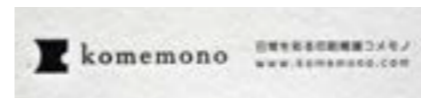


### 有する技術をプレゼンし 興味を示したデザイナーと組む

伝票印刷や活版印刷を手掛けてきた有限会社大林印刷。最近ではネットでの低価格印刷などに押され、苦戦を強いられている。こうした中、山田社長は何か変わったことがしたいと、薄いと紙のカレンダーを試作。得意とする薄紙への活版印刷技術を活かしたカレンダーだったが、デザイン性に乏しく売れないと実感した。そこでNICOの個別相談会「くらたデイ」でアドバイスをを受け、さらに「製造業と県内デザイナーのマッチング支援事業」への参加を勧められた。外部の人と連携すること自体初めての取り組みだったが、「何もしないことの方が不安でした」と、山田社長は応募を決めた当時を振り返る。

複数のデザイナーを前にプレゼンを行い、手を挙げた2社から同社が選んだのが、建築設計・デザイン事務所「スイカノタネ」の近藤氏だった。

「近藤さんは、私たちが思い浮かべない発想で提案してくれ、仕事の視野が広がりました。今後も連携して新ブランドを育てていきたいです」と山田社長。



大林印刷の技術とスイカノタネの発想がうまくマッチングし誕生した「komemono」。両社共同で運営するサイト(https://komemono.com/)は5月下旬にオープンする。

### デザイナーより 提案の際に 心がけたポイント

■ スイカノタネ 代表  
近藤 潤氏

大林印刷様は可能性を持っているのに、技術を活かしきれていない印象でした。同社の強みである薄紙・和紙に印刷する技術、活版印刷の技術を活かし、私のバックグラウンドである建築と掛け合わせた生活空間を豊かにするものを提案しようと考えました。既存の印刷技術や手書き和紙という自然素材を活かして“どうシンプルに料理するか”を心がけました。私がアイデアを出す、山田社長から印刷会社ならではの視点での指摘・提案があり、楽しんで取り組ませていただきました。

### 和紙の透け感を活かしたペンダントライトを開発

今回のマッチング事業で取り組んだのが、和紙のペンダントライト「yamayama」。奥行きある深山を表現した、シンプルで美しいライトだ。「近藤さんがアイデアを出して、こちらが専門的な解決策を返す。一緒に一つのものを作り上げていくという共同作業で、苦労はなく大変楽しい時間でした」と山田社長は開発過程を振り返る。

当初、1枚の長い和紙を渦巻き状に巻くアイデアだったが、長い手書き和紙がないことを知り、3枚の和紙を重ねることに。さらに、薄い和紙では強度も足りないことから、厚手の和紙に変更した。3枚の和紙それぞれに山のグラフィックが印刷され、和紙の透け具合が奥行きを表現している。明かりを灯すと一層際立つ。

### 互いに波長が合い第2・3弾の開発も検討中

約3ヵ月という限られた事業期間内で試行錯誤を繰り返し、ようやくプロトタイプが完成。今年3月に開催された「ニイガタIDSデザインコンペティション」の併設展で発表し、現在は本生産に向けた取り組みを行っている。

「今後、“印刷雑貨”という新しいジャンルのブランドを立ち上げ、第2弾、第3弾と展開していけたらと考えています」と山田社長は今後の展開を語る。ブランド名「komemono」は、活版印刷で活字を組む際、余白となる部分を作る道具「込め物」から名付けた。日常の余白を彩る、印刷会社が作る新しい日用雑貨という意味が込められている。マッチングという出会いが、新たな可能性を広げている。

今回のマッチングで開発した和紙のペンダントライト「yamayama」。柏崎で生産されている門出和紙に印刷を施している。色は3色展開。



『embroidery cozy plants』は、今年4月から新潟伊勢丹・越前コーナードで販売されており、記念日やお祝いのプレゼントに購入する人も多いとか。小さいタイプはオフィスの机に置くのもおすすめ。

### デザイナーより 提案の際に 心がけたポイント

■ 株式会社どら 制作部  
岩崎 信介氏

「塚野刺繍様の持つ技術を最大限にアピールできる商品開発」をポイントとして企画し、新しい事業に挑戦し、それが事業拡大につながることを狙いとして取り組みました。刺繍でいかに本物の植物に見せることができるか幾度となく試行錯誤しました。新しい事への挑戦と、現実的に形にできる商品開発との2つを両立することは難しかったですが、貴重な経験をさせていただきました。